

先週の回答



神田明神下の銭無平次は、評判がイマイチの目明かしだった。なんで評判がイマイチかというと、やや早とちりの性格だからである。手下のがらッ八の八五郎も親分の早とちりには泣かされてきた。が、自分でもわかつている平次は、人前に出ると意識してニコリともしない。甘く見られたくないからである。笑い顔のひとつくらい見せても顔は減らないのにと八五郎は心の中で舌打ちする。

「てーへんだー、てーへんだー」
 大江戸八百八町にひびき渡る大声を張り上げて、日本橋を駆けぬけて平次宅に飛び込んできた八五郎は、息をゼーゼー、ハアハアさせながら縁側でツメを剪

っている親分に、

「親分、てーへんです」

「どーした、犬がネコでも産んだか」パチ。

「いいえ」

「おヨネ婆さんが産気づいたか」パチ。

「いいえ、大川に土左衛門が上がりやした」

「土左衛門は火の見やぐらに上がったりはしねえだろうからな」パチ。

「すごい美人」

「がたがたするねえ、美人ぐらいで」パチ。

「それが全裸」

次の瞬間、目の色を変えて平次は現場に向かつて走っていた。



日本橋の上は、一目見ようと野次馬がすずなり。橋が崩れるのではないかというほど。全員河原のムシロをかけられている死体を見つめている。

野次馬をかき分けて、落ち着き払ったようすをして平次親分はムシロがけの死体の脇にかがんでムシロをめくった。「む、こいつはひでー、首から上がない」

「親分、そっちは下半身です。上半身はこっちです」
 と、八五郎が反対側をめくった。
 ドッ！と橋の上の群衆は一斉に笑った。

今週の問題



□の中に漢字を埋めて
四字熟語を完成させてください。